

イノベーション・コースト構想

エネルギー関連産業プロジェクト

再エネの導入拡大

- 産総研福島再エネ研究所
 - ・我が国唯一の再エネ研究に特化した公的研究所(2014年4月開設、郡山市)
 - ・スマートシステム研究棟の活用推進、国際認証制度の検討
- 福島浮体式洋上風力
 - ・復興のシンボル及び世界初の本格的な事業化を目指す(2015年に7MWを設置・稼働)
 - ・2016年中に5MW(3基目)を設置、発電システムの本格的な実証実験をスタート
- 再生可能エネルギー導入支援補助金
 - ・他の地域にはない、固定価格買取制度に加えて設備導入を支援する補助金を福島県向けに措置(2014年度補正予算額:92億円)
- 系統用大型蓄電池実証
 - ・東北電力南相馬変電所に再エネ受入れ可能量拡大のための実証。5万kWを避難解除区域等の発電事業に優先割当(2016年2月稼働)

水素社会実現のモデル構築

- 水素キャリア(MCH)に関する基盤技術研究
 - ・産総研福島再エネ研究所でトルエン⇔MCHのキャリア変換技術開発、MCHから水素を取り出し、安定的に燃焼するエンジンの開発(2014年～)

スマートコミュニティの構築

- 復興まちづくりのためのスマートコミュニティ形成プロジェクトの実施
 - ・会津若松市におけるCEMSを中心とした実証(2014年10月～)
 - ・新地町、相馬市、浪江町、楡葉町でFSを開始(2015年12月～)

取組加速化
成果活用

新たな
取組
の展開

福島全县を未来の新エネ社会を先取りするモデル拠点

- 各省予算プロジェクトの福島での集中実施
 - ・県内でのプロジェクト創出、補助事業等の優先的に実施する措置を検討
- 福島発の技術、モデルの国内外への発信
 - ・在京外交団等の視察ツアー、国際会議等の開催誘致

再エネの導入拡大～更なる導入拡大に向けた送電網の増強等～

- 阿武隈、双葉エリアの風力発電のための送電線増強
 - ・電力会社、発電事業者等による送電線整備、管理等を行う事業体の設立
 - ・関係省庁等によるルート検討、土地利用等に関する検討会の立ち上げ

水素社会実現のモデル構築

～再エネから水素を「作り」「貯め・運び」「使う」一貫通貫モデルを創出～

- 再エネによる大規模水素製造(世界最大1万kW級)
 - ・今年度中に実証の具体的な実施方策について検討会を立ち上げ、2020年までに運転を開始
- 次世代の水素輸送・貯蔵技術の実証(東京2020オリパラ競技大会期間中の活用)
 - ・福島産水素について東京2020オリパラ競技大会期間中の活用を検討
- 水素利用の拡大
 - ・福島県における水素ステーション整備の支援、FCV、FCバス及びFCフォークリフトの導入推進

スマートコミュニティの構築

～再エネ・水素活用による復興まちづくりを後押し～

- CO2フリー水素タウンのモデル創出
- 全县大への展開(FS調査の実施)
 - ・復興とも連携したスマートコミュニティ形成にも資する先行事例集の作成
 - ・県内におけるFS調査の支援

検討スケジュール

3月5日 総理福島訪問（「福島新エネ社会構想」を表明）

3月27日 福島新エネ社会構想実現会議（第1回）

6月16日 構想骨子の検討（第2回）

夏頃 構想のとりまとめ（第3回）